

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
心理学 Psychology		1年・2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(社会福祉主事科目。介護福祉士選択必修科目。)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹仁美	講義棟3階	水・木・金（授業時間と学生相談時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
心理学は人の心と行動を科学的に研究し、理解しようとする学問であり、人の生活に貢献することを目指すものである。この科目では①心理学の基礎領域、②心理学の応用領域、を学習内容として、人、身体、社会の相互関連性を理解し、日常生活において発見し適切に行動する力の習得を図る。				
授業の目標				
①心理学的なものの見方や考え方の知見を得て、それらを日常生活の中で発見することができるようにする。②生活の中で心理学が生かされていることを認識し、これまでの自分の体験と照合して、これからの生活をよりよくしようとする態度をとることができるようにする。③人の心と身体と社会は相互に関連していることをふまえ、建設的な生き方を選択しようとする態度をとることができるようにする。				
授業の方法				
主に講義形式。				
学習の成果（学習成果）				
この授業に積極的に参加すると①心理学的なものの見方や考え方を日常生活の中で発見することができる。②自分の成長発達を振り返り、過去と現在をつなぎ、少し先の将来を見通した行動をとることができる。③人は、個人内、個人間、環境との相互関連性の中で生活していることを前提に、自らの行動をより適応的に選択することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス：授業概要や目標の説明 成績評価と受講上のルール説明 日常の中の心理学的問題			
第2回目	心を発達させながら環境に適応する（発達についての心理学：乳幼児期～青年期）			
第3回目	失っていくプロセスに適応する（発達についての心理学：成人期以降）			
第4回目	外界の情報を取り込んで解釈する（感覚と知覚についての心理学）			
第5回目	外界の情報を貯蔵し、それを使う（記憶と思考についての心理学）			
第6回目	経験によって新たな行動を獲得する（学習についての心理学）			

第7回目	聞く・話す・読む・書く（ことばについての心理学）
第8回目	やろうかやめようか、どっちにしよう（意思と行動決定の心理学）
第9回目	十人十色（性格についての心理学）
第10回目	だれかとつながりたい（人間関係についての心理学）
第11回目	最近、いつもの調子がだせない（心の不調についての心理学）
第12回目	心の声に耳を傾けよう（カウンセリングについての心理学）
第13回目	ふつうって？（ジェンダー、障害についての心理学）
第14回目	心のケアをするところ（心理臨床実践領域） 期末試験
第15回目	ワンダフルライフ、健康に生きよう（健康についての心理学）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート	50%	課題に即した内容で、単なる感想ではなく心理学的記述であること。
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	○×形式と記述形式。課題の要求を満たし、心理学的記述であること。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

必要に応じて資料を配布する。

履修上の留意点・ルール

授業内容を復習すること。